

民間図書館におけるソーシャル・キャピタルと場の形成に関する研究

金澤 愛香

近年、人のつながりの希薄化が進んでいる。地域コミュニティの衰退が起きており、住民の主体的な取り組みによる活動が増加している。しかし、地域・人のつながりを形成する場が十分に提供されているとは言い難い。地域社会コミュニティがうまく機能していくような人間関係や互いの信頼に基づいた水平なネットワークのつながり、いわゆる、ソーシャル・キャピタルを形成するきっかけとしての場を提供することにより、地域コミュニティを再生できると考える。地域コミュニティの再生に関する活動として、民間図書館が注目されている。図書館を通じて、地域活性化の促進を目的とする活動である。

本研究では民間図書館における場の実態と形成過程を明らかにすることを目的とした。具体的に、場をきっかけ、運営、空間という 3 つの側面で定義した。本研究の方法としては、民間図書館全 29 館の関係者を対象に現地調査、ヒアリング調査を行った。

結果として、活動開始当初の民間図書館は、設置者が実際に他の民間図書館の利用者であったことや、雑誌や新聞で民間図書館の活動を知ったことがきっかけで、図書館ありきで開館が広がっていた。そして、情報ステーションの直営の民間図書館も多かった。ところが、情報ステーションの活動が広がり、認知度が高まるにつれて、情報ステーションと設置者が知り合いであったことや、人伝えで民間図書館について知り、設置したというきっかけが多かった。運営では、情報ステーション直営の民間図書館は、ボランティアが常駐し、システムを導入している運営を行っているのに対し、近年の民間図書館は設置者に運営を任せていることがわかった。また、民間図書館は誰もが利用できる図書館であるが、マンション等、利用者を限定している図書館があった。空間に着目すると、当初は間借りの空間で既存の建物が多かったが、近年では独立した空間で新築の建物の民間図書館が作られ、空間が豊かになってきている。しかし、空間が豊かになるほど、運営が手薄になっていることがわかった。民間図書館という活動が認知されてきたことで、近年の民間図書館は、集客率をあげることに焦点をあてているように考えられる。

以上のことから、民間図書館は、空間は豊かになっているが、運営が手薄になってきている等、課題が多くみつかった。しかし、図書館機能を優先し、民間図書館全体を組織的に運営している、情報ステーションという本部が存在することで、民間図書館を開館するきっかけをうみだしており、民間図書館を作ることで、人々の交流が生まれる場を提供し、地域を活性化させ、地域・市民のつながりを形成していることが明らかになった。

(指導教員 三森 弘)